

HRE031-13

会場:303

時間:5月24日 11:45-12:00

地球惑星と工業的な高温炭酸ガス固定問題

Affairs of solidified carbon dioxides at high temperature on Earth planet and artificial industry

三浦 保範^{1*}

Yasunori Miura^{1*}

¹ 山口大学

¹ Yamaguchi University

本研究結果は次のようにまとめられる。

1. 地球温暖化は、地球惑星全体の現象である。人工的な炭酸ガス増加問題は、グローバル的な発想で対応しないと、局所的な考えの対応は結果的に効果的な地球惑星科学的な対応にならない。

2. 低温で生活している生命体の呼吸循環や地球上の海水中での炭酸ガスからの炭酸塩鉱物生成の循環反応は、比較的低温炭酸ガスの状態変化と固定化反応である。地球史の生命体（植物等）発生後の酸素発生と炭酸ガス減少はこのタイプの効果的な低温反応に基づく。

3. 産業革命以来の人工的な炭酸ガスの増加は、（石油石炭燃焼による）煙突や燃焼排気管からの高温炭酸ガス発生によるものであり、空中に放出したため状態変化しなかったことを示している。

4. 地球の比較的低温の自然大気（低温高温活動中）惑星に比べて、金星の高温炭酸ガスは、火山や隕石衝突による活動的な高温発生後状態変化せずにそのままになっている（高温活動中断中）惑星である。火星は低温炭酸ガスが現在では火山と海水経由の炭酸塩形成固化が止まり、極冠のドライアイス固化との状態変化をする（低温活動中）惑星である。大気がない月や小惑星の小天体は岩石固体以外しかないグローバル的な状態変化の活動停止をした（グローバル活動中止）天体である。

5. 地球での高温炭酸ガスの人工的（工業的）発生の増加は、金星的状况である。その発生した高温炭酸ガスの状態変化を利用して、気体の減少（状態変化により）することにより、地球温暖化防止だけでなく、将来金星の温度変化で活動継続が期待できる。

6. 工業的な炭酸ガス減少法は、筆者の提案（2007）したグローバルな高温直接固定発想が適切である。その意味で、それ以外は局所的で複雑思考のエネルギー浪費的で（科学的）バブル的手法であると考えられる。

キーワード: 高温炭酸ガス, 低温炭酸ガス, 地球惑星, 工業排気炭酸ガス, 状態変化, グローバル思考

Keywords: carbon dioxides at high temperature, carbon dioxides at low temperature, Earth planet, industrial gas, state change, global idea